

平成 26 年度第 2 回奈良市子ども発達センター推進会議の概要

開催日時	平成 27 年 2 月 18 日（水）午前 10 時から正午まで
開催場所	奈良市役所 中央棟 6 階 正庁
議 題	1 部長挨拶 2 会議の公開について 3 議事 (1) 子ども発達センター療育相談室の事業報告 (2) 児童発達支援「いっぽ」の事業報告 (3) 意見交換 4 事務連絡
出席者	出席委員 6 人（欠席委員なし）・事務局 14 人
開催形態	公開（傍聴人なし）
担当課	子ども未来部 子育て相談課

議事の内容

- 1 挨拶
- 2 会議の公開について

事務局より、会議は原則として公開であること、本日は傍聴人がいないことを確認した。
- 3 議事
 - (1) 子ども発達センター療育相談室の事業報告
 - ①平成 26 年度（4 月～1 月）の事業実績
 - ②平成 26 年度の事業報告

「啓発」「今年度の新たな取り組み」「連携」「子ども発達センターの 3 年目の取り組みから」
 - (2) 児童発達支援「いっぽ」の事業報告
 - ①施設運営状況

「発達支援」「家族支援」「地域支援・連携」「平成 25 年度利用満足度調査結果（平成 25 年度 12 月から平成 26 年 1 月実績）での要望事項への対応状況」「職員研修の充実」「平成 27 年度の体制及び取り組み等」
 - ②アンケート調査の結果及び課題について

「平成 26 年度利用満足度調査」「平成 26 年度公開療育実施状況報告」
 - (3) 意見交換
 - みどり園について
 - ・みどり園については、通園目標や紹介シート、個別の支援計画を活用しながら、保護者と共有していく事が大切。
 - ・児童発達支援との並行通園が増える中、保護者と子どもが必要に応じて利用できる仕組みづくり。
 - 医療機関との連携について
 - ・発達センターの紹介で医療機関を受診される場合、情報提供書の内容について

保護者に確認しても「わからない」と言うケースが多いので、医者に質問したら良い点等について保護者と確認しておくことや、いっぽの利用者には医療機関へ同行受診できるなら、保護者の代わりに職員がその点を聞けると良い。

- ・奈良市内の発達支援を専門とする医療機関は少なく、満員であるため、子どもも大人も、なかなか受診できない状態にある。その中で医療と上手く連携していけるような仕組みづくりが必要。

○障害児支援利用計画について

- ・現在、障害児通所支援支給決定基準がまだ浸透しておらず、保護者や学校の先生などに周知していく必要がある。
- ・計画を立てるためには、療育の視点、発育・発達支援の視点、家族支援の視点を分かっている事が必要であるが、それが可能な相談員は、まだ少ないのが現状である。しかし、発達センターの相談等からサポートファイルの活用やアセスメント後の報告書など、保護者がみて分かるように書面にする事で、障害児通所支援利用計画等も、今後立てやすくなる。

○保護者への支援について

- ・保護者の中で、児童発達支援等の情報が氾濫しており、必要以上に、療育を受けたいと焦っている保護者が多いので、利用の必要性など保護者と共有し、必要な支援のコーディネートができる存在が必要である。

○園への支援について

- ・支援者研修を通して、園での支援によい変化が出始めているが、まだ、初歩的な段階であるため、そこから、どのように引き上げていくかが、今後の課題である。
- ・公立幼稚園・保育園がこども園に変わっていく中、支援を必要とする子ども達への支援体制も充実させていくべきである。

○子ども発達センターとして

- ・専門機関としての役割を担っていく事は大切であるが、保護者が気構えず、気軽に相談にいける場所であるべきである。

4 事務連絡

- 平成27年度の予定